

# 令和2年度 学校評価シート 島根県立江津高等学校

評価:4(十分に達成できている状況) 3(おおむね達成できている状況) 2(どちらかと言えば達成できていない状況) 1(ほとんど達成できていない状況)

教育目標		重点目標	担当分掌等	具体的目標	江津高校の教育活動	校内評価	学校関係者評価	来年度への取り組み	
【校訓】 思慮 高邁 貫徹	誠実を尊び真理と正義を愛し、合理的精神に富む人物の育成 意志強固にして勤勉努力する実践的人間の育成 豊かな徳性をそなえ和合協力してことに当たる人間の育成	【育てたい生徒像】 健康で安全な生活を実践し、持続可能な社会の創り手となるような地域課題の当事者として自覚するとともに、自らの成長のために挑戦する生徒	生徒が出会いを通して感動し、意欲的になる機会を与えます。	総務部	全教職員と協力し、学校行事を円滑かつ組織的に行う。	他の分掌や学年会と連携し、学校行事の企画立案を迅速に進める。	3.4	◆フォロー体制は整っていると思います。学校・地域・生徒、相互間のフィードバックと成果発表の場をたくさん設けることが大切である。学校内の発表にとどまらず外部に向けての発信を行う。地域や保護者は関心を持ってみている。 ◆生徒の学習意欲の高まりや地域学習に意欲的に取り組む姿勢は注目に値する。指導上の工夫があったと推察している。逆に、スクラップが大切な時期でもあり、優先順位をつけてスクラップを行い、新しい指導法の発見に結びつけていくことも重要である。 ◆部活動が生徒に与える影響も大きい。働き方改革の観点からの課題を克服しつつ、生徒の個別の持ち味を引き出し、進路実現につながる部活動を期待する。 ◆KAWARAプロジェクトの中の「わくわくプロジェクト」の活動で、生徒たちが直接的に小学生と関わり、指導役を務めたことは、双方にとって大きなインパクトになったと思う。教員志望の生徒が増えていくと良い。 ◆生徒と教員間でのキャリアノート(パスポート)による対話を促進し、生徒の主体的なキャリアプランニングにつなげていく。 ◆生徒に何事においてもふり返ることを習慣化させるため、ふり返りシート(ビナクルシート)は効果的であり活用促進がのぞまれる。 ◆教師間の協働という観点から、教員相互の授業研究に対する評価が低いことが気になる。研修の機会を活用して学校全体で授業改善を進めていくことが必要ではないか。 ◆生徒が学校や地域で学んだ成果を外に発信する場として、次年度予定されている修学旅行に期待がかかる場所である。 ◆総合的な探究の時間におけるKAWARAプロジェクトの継続と更なる促進をのぞむ。レビューとフィードバックを繰り返して行っていく。 ◆読書の習慣化や図書館活用の促進が必要である。月1回くらいホームルームで担任の先生や司書の方などと本についての情報交換を行う。 ◆本校の“強み”や“ひかりもの”を具体的に明示し、キャリアデザインとして取り入れていく。地域や保護者は注目してみている。 ◆教員の心の余裕やしんどさは生徒に伝わっていくものである。仕事の重さは業務間で異なっており、どのように調整していくかが課題である。	【総務部】 ○学校だより：生徒や地域に「アオハル52」中学生に「わくわくレター」を発行しており、ホームページでも閲覧できるようにする。 ○メール配信：双方向送信及び配信頻度・時間帯等について検討中である。緊急以外の連絡は、内容・起案方法・発信担当等を検討する。 【教務部】 ○学習支援：次年度の目標設定に盛り込むには、学年部との連携方法について具体的な方策が必要である。 ○授業参観：生徒の学習状況の共有とともに教員の授業改善が目的であったが、ほとんどの教員に時間的な余裕がなかった。時間を食わない方法を検討する必要がある。 ○読書指導：毎日の朝読書実施の要望が増えれば再提案する。 【生徒部】 ○委員会活動：活発にするための方法について再検討が必要である。 ○新型コロナウイルス感染症予防：保健たより(月1回以上)発行。マスク着用・手洗い・換気等による感染予防を行う。 ○服装指導：教員間の温度差がない指導をめざす。指導後の再指導を徹底する。 【進路指導部】 ○オンライン対応(生徒)：個人面接やグループディスカッションの指導やサポート、インターネットによる出願指導。出願時における学習計画作成のサポート等を行う。 ○オンライン対応(教員)：校内研修や校内説明会を開催する。 ○情報収集の充実：生徒が主体的に行動できるよう、県外等で実施されるオープンキャンパスや学校説明会に係る指導を行う。 【事務部】 ○危機の未然防止：校地内の施設・設備点検等を実施し、安心・安全な環境整備を図る。 ○業務の見直し：「業務量の削減」と「業務の効率化」に取り組む。 【1年部】 ○いじめ対応：アンケート等による早期発見・再発防止の取組を分掌等と連携して行う。 ○学習指導：「家庭学習はしなければいけない」という意識づけを行う。学習時間調査の分析やふり返りを徹底する。 ○保護者への情報提供：キャリアに関わる教育活動について、保護者への予告や報告の機会を増やす。 【2年部】 ○進路決定に向けた体制づくり：生徒が主体的に取り組む達成感が得られるよう、面談の充実、多様な志望に対応した補習や模試の実施の検討、学年保護者会の充実をはかる。 ○諸活動の充実：生徒会活動・ボランティア・地域活動を奨励し、部活動未加入の生徒の活動を支援し、各種検定の情報提供や機会を設定する。 【3年部】 ○資格検定試験：教科と連携しながら実施することで、努力の成果が見える化し、一つの成功体験とする。また「学ぼうとする姿勢」づくりに資する。 ○定期的な生徒面談：担任の他、多方面からの面談を継続し、身近な大人としての存在である教員が、生徒にきめ細やかに関わっていくことでロールモデルになっていく。
				教務部	総合学習、総合探究を支援する。	・発展的内容希望の生徒向け添削指導を推進する。 ・課題への取り組みについて、部活動と連携した放課後学習を継続する。	2.9		
				生徒部	①地域との関わりをなかで豊かな心を養う経験を支援する。	①ボランティア活動に積極的に参加させる。	2.4		
				進路指導部	①キャリアパスポートの作成を通じ、生徒ひとりひとりの将来を見通した進路設計の支援を行う。	①進路サポートを活用し、探究活動の成果や、模試結果などのポートフォリオ化をはかる。	3.1		
				学年部	1年：地域や社会との関わりを意識し、自己の成長につながる経験を積む。 2年：自己の課題を意識し、諸活動や学習に主体的に取り組む。 3年：様々な活動を通して、将来の夢に向かって学ぼうとする姿勢を身につける。	1年：総合的な学習・探究の時間で、地域との関わりを意識し、自己理解を深める。 2年：学習時間調査・ワークシート・面談では常に目標を意識させ、姿勢の向上を図る。 3年：自身の興味関心に応じて、ボランティア活動や各種体験、資格試験や検定試験などに取り組ませる。	3.0		
				事務部	①学校施設・設備の安全安心な環境を整備する。 ②学校予算の効率的・効果的な執行を行う。	①-1 校地内施設・設備等の日常点検等により、問題の早期発見に努め、事故等の未然防止に取り組む。 ①-2 計画的に校内の整理・整頓、不用品の処分等を行い、優先順位を考慮しながら、教育環境の向上に努める。 ②-1 適切な予算管理を行い、必要性・費用対効果等を勘案しながら執行する。 ②-2 就学支援金、奨学のための給付金等の制度周知に努め、保護者の負担軽減を図る。	3.5		
				総務部	広報活動を充実させ、PTA、地域との連携を図る。	PTAや江星会との連携を密にし、他者と協働する機会を作る。	3.3		
				教務部	②主体的な学習習慣を身につけられるように支援する。	教員間で授業の参観を行う。	2.3		
				生徒部	②学校生活や部活動を通して、健康の大切さを意識させるとともに、意欲的・自発的に行動することを支援する。	②-1 委員会活動を毎月1回以上開催する。 ②-2 保健だよりを毎月1回以上発行する。 ②-3 保健に関する講演会を各学年1回実施する。	3.1		
				進路指導部	②進路実現に向け生徒が自ら考え、判断し、表現する機会を準備し、支援する。	②進路希望調査、スタディーサポート、進路サポートなどを活用することで生徒が自らの進路向き合う機会をつくる。	3.4		
				学年部	1年：生活や学習に主体的に取り組む、高校生としての基盤を作る。 2年：自己を振り返り、自分の言葉で表現する習慣をつける。 3年：自己の課題を自覚し、その解決に必要な力を身につける。	1年：②-1 学習時間調査を利用して、授業を大切に学習習慣の確立を目指す。 ②-2 挨拶や身だしなみにおいて、高校生らしいふるまいを身につける。 2年：高みシート、振り返りシート、発表等を通して、月1回は表現する機会を設定する。 3年：学習時間調査や面談を通して、自己の課題の確認や修正を行い、学習に意欲的に取り組ませる。	3.1		
				総務部	生徒が主体的に活動できる場を設定し、学校魅力化を推進する。	地域教育CNと協力し、「学校だより」等で学校の魅力を発信する。	3.2		
教務部	③読書に対する興味関心を高め、多様な知識や教養を身につけることによって、多様性を受け入れる態度を養う。	・図書館だよりを毎学期に2回発行する。 ・年2回の読書週間実施と活用レポートの改訂を行う。	3.2						
生徒部	③多様性を尊重し、人間関係力を高められるよう支援する。	③-1 「コミトレ」を発行する。 ③-2 アンケートQUの実施と分析 ③-3 人権・同和教育に関するHRを各学年で実施する。	2.7						
進路指導部	③ 自らの進路探究を通じ学ぶ力を伸ばし、地域の一員として地域社会に貢献しようとする志を育てる。	・進路補習等で生徒の進路志望を実現する学力を育成し、面接・小論指導を行うことで生徒の進路志望と社会とのつながりを探究させる。	3.2						
学年部	1年：他者との協働活動を通して価値観の多様性を理解し、自己意識を高める。 2年：他者との協働を通して、チーム力の強さと大切さを実感する。 3年：地域社会との繋がりの中で、責任ある行動がとれるようになる。	1年：部活動や総合的な学習・探究の時間において、他者と積極的に協力して活動する。 2年：学期に1回は校外の方と関わる機会を持つことで、地域での自己の役割を意識させるとともに、グループ活動を通して相手を思いやる心を育てる。 3年：爽やかな挨拶や身だしなみで、授業や行事などの場にふさわしい態度で活動に取り組ませる。	3.1						